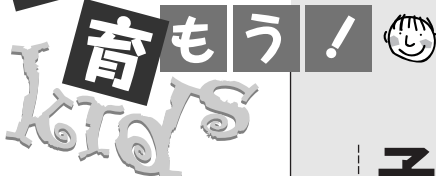




# 地域で 子どもたちを 育もう！



## 子どもをめんこがる

### — 大館市放課後子ども教室の取り組み（秋田県） —

「子どもが育つ放課後の居場所づくりフォーラム in 青森」（2009年11月29日開催）のバネリストを務めた、コーディネーターの鳥潟美奈子さんを訪ね、NPO法人秋田県北NPO支援センターが運営する、大館市内8校の放課後子ども教室の実情を伺った。（取材・文／井上 達也）

#### 子どもは面白い

鳥潟さんが子どもと関わるようになったのは、学校週休2日制の試行段階の時期の、体育館開放のボランティアがきっかけである。「土曜、満腹になるくらい遊ぶと、子どもは本当に生き生きとした表情になります」とのこと。またその頃から、



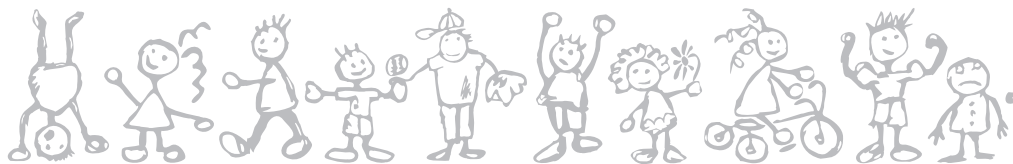
子どもとともに、自由な発想で楽しい遊びを生み出してきた。例えば、休日を利用してお座敷列車で出かけたり、学校の調理室を利用し大巻き寿司を作ったり。「子どもは発想が豊かで本当に面白いです」とは鳥潟さんの言葉である。そして、子どもたちが自らやりたい、好きなことをするという考え方は、現在の子どもの教室の取り組みにも受け継がれている。

#### 子どもとどう向き合うか

前身である地域子ども教室事業が実施されるに当たり、大館市は鳥潟さんの活動・取り組みを取材し、その後子ども教室のコーディネーターとして事業を採用することにした。子どもと



ブロック遊びは自由を作る楽しみがある



長く関わってきた鳥潟さんであるが、最近の子どもにはある種の危機感を感じている。「少子化の影響でしょうか、子どもに目が届き過ぎて。とにかく、集団に入れない、些細なことですぐにトラブルを起こす子どもが増えています」。そこで、毎月1回開催される指導員向けの研修会では、子どもと親の関係を良くすることを心掛けている。

「保護者の方とは学校の先生以上に、毎日接する機会があります。めんこがって（かわいがって）共に育てる気持ちを持つことで信頼関係を築き、子どもの良いところを伝え、いっぱいほめてほしいと促します」。研修会は、問題がリアルタイムに確認され、指導員が知恵を出し合い、解決を図り、共通理解を深める貴重な場となっている。

### 子ども主体の遊び・地域とつながる

大館市の放課後子ども教室の1つ「長木なかよしクラブ」では自由遊びの中から、共助を育む遊びも生まれつつある。「砂遊びは単純ですが、みんなの協力が生まれます」。夏休み、砂場で子ども

もたちが川や橋を作ったそうだが、

やがて本当に水を流そうということ  
で、全員で協力し  
バケツリレーで水  
を入れ、最後は全  
員泥だらけで大は  
しゃぎしたそうだ。

「北部市民活動サ

ポートセンター（秋田県北部男女共同参画センター内）とNPOの連携があるので、地域の情報が集まり、活動に協力してくれる人ともつながります」。インドネシア人の元保育士さんによる「英語であそぼ」や、お茶の先生による「お茶会」のプログラムは、センターに入りする人とのつながりの中で誕生した。「まだまだいろいろな地域力を巻き込まねば」という鳥潟さんであるが、子どもにも向き合う姿勢を教えられる一日となった。青森のフォーラムは次号で紹介しします。



「英語であそぼ」は子どもを開放的にするプログラム

